

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也研究室 (5号館5633号室) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、地域研究の視点から、東南アジアのタイ王国の歴史を機軸としながら、現在の政治、社会文化、経済、ビジネスについて幅広く知り、国際理解のための視野を広めることを目的とします。	メッセージ 講義形式は、つぎのとおりです。1) タイの地域研究について、テーマ別概要・既存研究の成果を、資料、映像などをおりませながら講義する。2) 講義内容をもとに、関心のあるテーマについて文献調査の成果を報告する。3) タイ語の日常会話の学習をとおして、生きたタイの文化にふれる。4) 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 東南アジア文化およびタイ王国の社会、文化などについて理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 オリエンテーションと評価方法 第02回 アジア研究(東アジア、東南アジア、南アジアなど) 第03回 東南アジアの歴史的特性1 第04回 東南アジアの歴史的特性2 第05回 東南アジアにおけるタイ王国(タイの基礎知識)1 第06回 東南アジアにおけるタイ王国(タイの基礎知識)2 第07回 理解度のテスト 第08回 映画で見るタイの歴史1 第09回 映画で見るタイの歴史2 第10回 映画で見るタイの現代社会 第11回 映画で見るタイのHIV問題 第12回 タイの貧困問題 第13回 タイ言語 (初心者タイ語講座1) 第14回 タイ言語 (初心者タイ語講座2) 第15回 タイ言語 (初心者タイ語講座3) 第16回 期末試験とレポートの提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で、適切なテキストを指示する。 必要に応じてコピー資料を配布する。
	学びの手立て 第1回目の授業は必ず出席すること。積極的に学ぶ姿勢が必要である。 新聞、テレビ、インターネットなどで流される東南アジア諸国およびタイ王国に関する情報を収集する。
	評価 理解度のテスト(20%)、期末試験 (35%)、レポート(30%)、平常点 (15%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア研究II、その他国際理解科目群
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室: 5号館5633号室 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、地域研究の視点から、東南アジアのタイ王国の歴史を機軸としながら、現在の政治、社会文化、経済、ビジネスについて幅広く知り、国際理解のための視野を広めることを目的とします。	メッセージ 講義形式は、つぎのとおりです。1) タイの地域研究について、テーマ別概要・既存研究の成果を、資料、映像などをおりませながら講義する。2) 講義内容をもとに、関心のあるテーマについて文献調査の成果を報告する。3) タイ語の日常会話の学習をとおして、生きたタイの文化にふれる。4) 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 東南アジア文化およびタイ王国の社会と文化などについて理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回: オリエンテーション 第02回～第05回: 日タイ交流、タイ社会と日本文化、タイと日本・沖縄の共通性 第06回～第08回: タイの政治、文化、宗教(仏教)、タイ料理、タイ映画 第09回: 理解度のテスト 第10回～第12回: タイのビジネス(ファミリービジネス、華僑、外資系企業の進出の発展など) 第13回～第14回: タイの国際観光ビジネス 第15回: まとめ 第16回: 期末試験とレポートの提出 (第2回～14回: タイ語の日常会話を学習する)
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で、適切なテキストを指示する。
	学びの手立て 第1回目の授業は必ず出席すること。積極的に学ぶ姿勢が必要である。 新聞、テレビ、インターネットなどで流される東南アジア諸国およびタイ王国に関する情報を収集する。
	評価 理解度のテスト(20%)、期末試験(35%)、レポート(30%)、平常点(15%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 その他国際理解科目群
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性 沖縄とも関係の深いアメリカ合衆国について、基礎的な知識を身に付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アメリカ研究	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐藤 学	1年	sato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とする。良く知っているはずの、最も重要な国であるが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者であるが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりである。	メッセージ 知っているようで知らないアメリカ合衆国のホントの姿を知ろう
	到達目標 単純な先入観を超えたアメリカ観を得るための基礎を学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」	
	2	政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党	
	3	政治の姿：オバマ大統領まで	
	4	政治の姿：アメリカ政治の現在	
	5	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、大学の役割	
	6	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿・中国との競争	
	7	アメリカで暮らす（1）：住宅	
8	アメリカで暮らす（2）：教育		
9	アメリカで暮らす（3）：医療・福祉		
10	アメリカで暮らす（4）：食生活		
11	アメリカのメディア：新聞、雑誌、TV, インタネット		
12	公民権運動：アメリカ合衆国の栄光		
13	軍の国、銃の国：安全保障、国内治安		
14	日米関係を考える		
15	世界の中のアメリカ合衆国：外交		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 使用しない。授業レジュメと資料を配布する。 講義内で適宜紹介する。		
	学びの手立て 新聞、雑誌で、アメリカ関連の記事を読むこと。		
	評価 レポートを課す。出題については、事前に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日常生活、勉学の中で、アメリカに関する事柄をより明瞭に理解できる基礎知識を身に付ける。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルサムニ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルサムニ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）	
	14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）	
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルサムニ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）	
	14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）	
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニイ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムーゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニイ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--



※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニイ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テストを行います。両方の結果の平均で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナー I	その他		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&amp;文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。</li> <li>・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。</li> <li>・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。</li> </ul> <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への参加度（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅡ	その他		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&amp;文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。</li> <li>・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。</li> <li>・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。</li> </ul> <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への参加度（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅢ	その他		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&amp;文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。</li> <li>・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。</li> <li>・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。</li> </ul> <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への参加度（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅣ	その他		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&amp;文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		



学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。</li> <li>・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。</li> <li>・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。</li> </ul> <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への参加度（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーV	その他		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&amp;文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。</li> <li>・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。</li> <li>・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。</li> </ul> <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への参加度（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。	国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。
到達目標	国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	貿易の基礎理論(国家間の財の移動)	参考文献①の第5章の2節
	3	自由貿易と貿易利益	参考文献⑤の第2章
	4	経常収支(国家間の資金移動・資金調達)	参考文献①の第3章の2節
	5	対外直接投資の基礎理論	参考文献①の第7章の2節
	6	貿易政策の基礎理論	参考文献①の第6章の7節
	7	戦後の国際経済秩序	参考文献①の第1章の2節
	8	同上(IMF体制・金本位制)	参考文献④の第8章の2節
	9	米国の戦後復興支援と欧州・日本経済	参考文献③の第8章の2節・3節
	10	国際収支上の直接投資の理論	参考文献③の第4章の2節・3節
	11	変動相場制・為替変動決定論	参考文献②の第2章
	12	国際経済の変貌と日本経済	参考文献②の第2章
	13	通商問題の変遷	参考文献①の第6章の1節
	14	地域経済統合	参考文献②の第3章の1節
15	国際経済の現状と課題	参考文献②の第4～第7章	
16	総括、期末テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。

学びの手立て	履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。
--------	--

評価	小テスト(計6回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。	国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。
到達目標	国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	貿易の基礎理論 (国家間の財の移動)	参考文献①の第5章の2節
	3	自由貿易と貿易利益	参考文献⑤の第2章
	4	経常収支 (国家間の資金移動・資金調達)	参考文献①の第3章の2節
	5	対外直接投資の基礎理論	参考文献①の第7章の2節
	6	貿易政策の基礎理論	参考文献①の第6章の7節
	7	戦後の国際経済秩序	参考文献①の第1章の2節
	8	同上 (IMF体制・金本位制)	参考文献④の第8章の2節
	9	米国の戦後復興支援と欧州・日本経済	参考文献③の第8章の2節・3節
	10	国際収支上の直接投資の理論	参考文献③の第4章の2節・3節
	11	変動相場制・為替変動決定論	参考文献②の第2章
	12	国際経済の変貌と日本経済	参考文献①の第2章の1節
	13	通商問題の変遷	参考文献①の第6章の1節
14	地域経済統合	参考文献②の第3章の1節	
15	国際経済の現状と課題	参考文献②の第4～第7章	
16	総括、 期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。</p>	
学びの手立て	<p>履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。</p>		
評価	<p>小テスト(計6回)・期末テスト. . . . . 計70%          平常点. . . 計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」</p>

※ポリシーとの関連性

法学部専門科目の「国際政治学」と関係が深いので、より深く勉強したい学生は合わせて受講することをおすすめします。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際政治	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 章子	1年	ptt989@okiu.ac.jpまでメールください。	

学びの準備	ねらい 本講義は、国際政治が外交、安全保障、社会、経済、その他の様々なグローバル・ 이슈に広く関わることを理解してもらうことを目的としています。地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問を復習テストとして使用するので、試験対策としても有効です。	メッセージ 受講する学生の皆さんには、知識の習得以上に、国際政治への広い関心を持ってくれること、物事を様々な角度から柔軟に考えられるようになることを期待しています。時事問題を取り入れ、映画や音楽のPV、ドキュメンタリーの映像を短い時間で流したり、沖縄の魅力を外の目から紹介したりと、講義に色々な工夫をこらしていきます。
	到達目標 毎回の講義で話した内容に沿って行う復習テストで、正確に解答できるようになることを望みます。使用する問題は地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問ですので、最初は正誤問題に慣れなくて苦労する学生もいると思います。問題を解くための考え方を毎回解説しますので、それを自分のものとしてほしいです。身についたかどうかは、期末試験で判断します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	近代国家の条件(1) 主権	
	2	近代国会の条件(2) nation	復習テストの見直し
	3	近代国家の条件(3) 領土	同上
	4	非政府組織(1) 国連と国際機関	同上
	5	非政府組織(2) NGO	同上
	6	リアリズムの時代：勢力均衡と安全保障のジレンマ	同上
	7	リベラリズムの模索と限界	同上
	8	冷戦と脱植民地化	同上
	9	冷戦後の国際紛争	同上
	10	グローバル市場経済の発展	同上
	11	多国籍企業	同上
	12	グローバリゼーションと貧困	同上
	13	移民・難民問題	同上
	14	人権問題	同上
	15	環境問題	同上
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：ロビン・コーエン／ポール・ケネディ 『グローバル・ソシオロジー I—格差と亀裂』 平凡社、2003年		
	学びの手立て 教員が一方的に講義を行うのではなく、復習テストや講義中の応答を通じて、受講者一人ひとりに考えてもらうので、寝るだけ、友達と話すか携帯をいじるだけ、ノートをとるだけの講義態度では不可とします。		
	評価 毎回講義の冒頭と最後に復習テストを行い、最後の方の復習テストは回収することで、出席状況と授業参加姿勢を見ます。期末に行うテストは、復習テストの中から出題します。平常点70%、期末試験30%の総合評価となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目：国際政治学
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1年	ptt987@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。具体的な事例は沖縄戦ならびに軍事基地問題とする。	前期では戦争とアートに焦点をあて「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。
到達目標	目標① 平和学の歴史を把握することができる。 目標② 主要な平和学の理論を理解する。 目標③ 国際平和学の各基礎理論を説明できる。 目標④ 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標⑤ 国家の外交政策と国内政策の概要を説明できる。 目標⑥ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標⑦ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑧ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー「平和」ならびに「平和学」とは何か	
	2	沖縄で国際平和学を学ぶ①	沖縄の近代史
	3	沖縄で国際平和学を学ぶ②	沖縄戦
	4	アートと沖縄①	佐喜真美術館の成り立ちと意義
	5	平和学の形成と発展①	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力
	6	平和学の形成と発展②	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力
	7	レポート課題設定	
	8	アートと沖縄②	しまくとぅばで語る戦世
	9	沖縄で国際平和学を学ぶ③	沖縄の近現代史
	10	アートと沖縄②	しまくとぅばで語る戦世
	11	沖縄戦と米軍基地①	在宜野湾市の米軍基地の成り立ち
	12	沖縄戦と米軍基地②	在宜野湾市の米軍基地の成り立ち
	13	沖縄戦と米軍基地③	在宜野湾市の米軍基地の成り立ち
	14	米軍基地問題①	在沖米軍基地問題
15	米軍基地問題②	在沖米軍基地問題	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、ヨハン・ガルトゥング著、高柳先男、塩屋保、酒井由美子訳『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年など

学びの実践	学びの手立て ※本講義は佐喜真美術館での講義があります。日程：4月28日（土）、5月12日（土）、5月13日（日）。それぞれ10:30-12:00、各定員50名。  新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて世界の「暴力」や「紛争」の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 出席用紙に講義に関してのコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。小テスト、期末レポートを総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、小テスト（40%）、期末レポート（30%）。 期末レポート：3000字（沖国ポータルから提出）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「国際平和学Ⅱ」
-------	------------------------------

科目 基本 情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1年	ppt987@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上で、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。	国際社会の動向を知り、「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。
	到達目標	
	目標① 身近な問題を通して国際社会の課題を考えられるようになる 目標② 国際社会の問題を通して身近な問題を考えられるようになる。 目標③ 身近な問題を説明できる 目標④ 国際社会の課題を説明できる	

学 び の 実 践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション——国際平和学と「私」</td><td>ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力</td></tr> <tr><td>2</td><td>平和って誰がつくるの？</td><td>ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力</td></tr> <tr><td>3</td><td>5つの紛争解決の方法—トランセンド法から—</td><td>ヨハン・ガルトゥングの紛争解決</td></tr> <tr><td>4</td><td>コミュニティと平和①</td><td>構造的暴力</td></tr> <tr><td>5</td><td>コミュニティと平和②</td><td>構造的暴力</td></tr> <tr><td>6</td><td>平時における「平和」とは</td><td>構造的暴力</td></tr> <tr><td>7</td><td>レポートの課題設定</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>身のまわりにある差別問題①</td><td>身近な差別問題</td></tr> <tr><td>9</td><td>身のまわりにある差別問題②</td><td>身近な差別問題</td></tr> <tr><td>10</td><td>身のまわりにある差別問題③</td><td>身近な差別問題</td></tr> <tr><td>11</td><td>「言語」と平和①</td><td>しまくとうば復興</td></tr> <tr><td>12</td><td>「言語」と平和②</td><td>しまくとうば復興</td></tr> <tr><td>13</td><td>オルターグローバリゼーション①</td><td>オルターグローバリゼーション</td></tr> <tr><td>14</td><td>オルターグローバリゼーション②</td><td>先住民族の権利</td></tr> <tr><td>15</td><td>オルターグローバリゼーション③</td><td>先住民族の権利</td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション——国際平和学と「私」	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力	2	平和って誰がつくるの？	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力	3	5つの紛争解決の方法—トランセンド法から—	ヨハン・ガルトゥングの紛争解決	4	コミュニティと平和①	構造的暴力	5	コミュニティと平和②	構造的暴力	6	平時における「平和」とは	構造的暴力	7	レポートの課題設定		8	身のまわりにある差別問題①	身近な差別問題	9	身のまわりにある差別問題②	身近な差別問題	10	身のまわりにある差別問題③	身近な差別問題	11	「言語」と平和①	しまくとうば復興	12	「言語」と平和②	しまくとうば復興	13	オルターグローバリゼーション①	オルターグローバリゼーション	14	オルターグローバリゼーション②	先住民族の権利	15	オルターグローバリゼーション③	先住民族の権利	16	試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	イントロダクション——国際平和学と「私」	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力																																																			
2	平和って誰がつくるの？	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力																																																			
3	5つの紛争解決の方法—トランセンド法から—	ヨハン・ガルトゥングの紛争解決																																																			
4	コミュニティと平和①	構造的暴力																																																			
5	コミュニティと平和②	構造的暴力																																																			
6	平時における「平和」とは	構造的暴力																																																			
7	レポートの課題設定																																																				
8	身のまわりにある差別問題①	身近な差別問題																																																			
9	身のまわりにある差別問題②	身近な差別問題																																																			
10	身のまわりにある差別問題③	身近な差別問題																																																			
11	「言語」と平和①	しまくとうば復興																																																			
12	「言語」と平和②	しまくとうば復興																																																			
13	オルターグローバリゼーション①	オルターグローバリゼーション																																																			
14	オルターグローバリゼーション②	先住民族の権利																																																			
15	オルターグローバリゼーション③	先住民族の権利																																																			
16	試験																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	テキストは使用しません。プリントを配布します。																																																				
	学びの手立て																																																				
	新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて身近な「暴力」の事例を中心に授業を行う。																																																				
	評価																																																				
	出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。小テスト、期末試験を総合して判断、評価する。 出席・授業参加姿勢（30%）、小テスト（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（30%）。 中間レポート：2000字（沖縄ポータルから提出）。																																																				

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 国際社会の問題を身近な問題とひきつけて考えることができる。
-----------------------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 さつき	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「グローバル」または「グローバル化」という言葉は、今やそれを耳にしない日がないくらい身近な言葉となっていますが、その中でグローバルイシューと呼ばれる地球規模の課題が拡大しています。平和とは戦争がない状態だけを指すわけではありません。幾つかの課題を取り上げ、平和とは何か、どのような社会が望ましいのか共に考えます。</p>	<p>グローバルイシュー（地球規模の課題）と聞くとなんだか難しく、自分とは関係のないことのように感じるかもしれませんが、私たちの暮らしは世界とつながっています。世界で今何が起きているのか、その現状と背景に関心を持ち、考えてみたいという学生の受講を期待しています。</p>
到達目標	<p>① 地球規模の課題の原因や背景に関心を持ち、私たちとのつながりを考えられるようになる。                  ② 貧困など人類共通の課題についての理解と関心を深められる。                  ③ 関心を持ったテーマを自分自身で継続した学びにつなげることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと授業の導入のためのアクティビティ	シラバスを読んでおく。
	2	貧困と格差① 世界と日本の状況	講義の復習、関連資料・文献を読む
	3	貧困と格差② 「豊かな社会」に大切なこととは	同上
	4	持続可能な生産と消費① ワークショップを通じて考える持続可能な生産と消費	同上
	5	持続可能な生産と消費② フェアトレードとは	同上
	6	紛争と平和① 現代の紛争	同上
	7	紛争と平和② 構造的暴力、積極的平和	同上
8	紛争と平和③ 人間の安全保障と平和構築	同上	
9	人の移動① 世界の移民・難民の状況と課題	同上	
10	人の移動② 日本の移民・難民	同上	
11	人の移動③ 沖縄の移民・難民	同上	
12	人の移動④ 多文化共生とは	同上	
13	持続可能な開発目標（SDGs）について	同上	
14	授業のまとめ（試験形式）	同上	
15	授業全体のまとめ・ふりかえり 平和で公正な社会に向けて、レポート提出	講義全体の復習	
16	補講等、調整日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。                  参考文献や資料は随時授業内で提示します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え                  自分の考えを巡らせるほか、意見交換をする場を設けることも予定しているため、授業への積極的な参加を望みます。                  学習環境を大切にするため、授業中の私語や携帯の使用は控えてください。                  ②学びを深めるために                  普段から新聞やニュースに関心を持ち、関連の話題に触れるよう、自身で積極的に情報収集してください。</p>		
評価	<p>①授業態度(20%)・授業への参加姿勢(30%)…授業への参加状況・グループワークへの貢献、毎回授業後にリアクションペーパーを記入してもらい、授業内容の理解度をみます。                  ②学期末試験(25%)、レポート(25%)…授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解の深まり及び関心の広がりを見ます。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業内で取り上げたテーマを身近な問題と引きつけて考え、関心を持ったテーマを掘り下げていきましょう。「国際理解教育科目群」の関連科目を履修しながら理解を深めていくことをお勧めします。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	3年	授業の前後に教室で行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ヨーロッパ（主にフランス）を主題とする童話『星の王子さま』やアニメ映画『王と鳥』および映画『アンダーグラウンド』といった表象を通して、ヨーロッパの文化についての知識を得ることを目的とします。また、物語や映画が内包するヨーロッパ的なものを汲み取る力を身に付けて、それらを受容する感受性や日本を中心とするだけに留まらない幅広い視点を獲得することを目指します。</p>	<p>まず、ヨーロッパに関するさまざまな表現に触れてみましょう。それが、新しい世界への窓となります。</p>
到達目標	<p>ヨーロッパを主題とする表象（小説、映画、芸術、建築、音楽、料理、ファッションなど）を取り上げて、そこに内包されているヨーロッパ的なものを汲み取り、日本との比較を通してそれに関する自分の考えをまとめて、その考えを自分の言葉で発表することができるようになることを目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと童話『星の王子さま』についての発表の順番の決定	課題
	2	童話『星の王子さま』の分析と考察の方法の紹介と発表についてのガイダンス	課題
	3	童話『星の王子さま』の分析と考察（1）発表とディスカッション	課題
	4	童話『星の王子さま』の分析と考察（2）発表とディスカッション	課題
	5	童話『星の王子さま』の分析と考察（3）発表とディスカッション	課題
	6	童話『星の王子さま』の分析と考察（4）発表とディスカッション	課題
	7	童話『星の王子さま』の分析と考察（5）発表とディスカッション	課題
	8	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（1）ディスカッション	課題
	9	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（2）ディスカッション	課題
	10	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（3）ディスカッション	課題
	11	書評と映画評の作成についてのガイダンス	課題
	12	映画鑑賞とディスカッション（1）	課題
	13	書評あるいは映画評の作成（1）作成	課題
	14	書評あるいは映画評の作成（2）提出	課題
	15	書評あるいは映画評の作成（3）講評会	課題
	16	ヨーロッパを主題とする発表についてのガイダンス	課題
	17	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（1）発表とディスカッション	課題
	18	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（2）発表とディスカッション	課題
	19	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（3）発表とディスカッション	課題
	20	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（4）発表とディスカッション	課題
	21	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（5）発表とディスカッション	課題
	22	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（1）ディスカッション	課題
	23	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（2）ディスカッション	課題
	24	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（3）ディスカッション	課題
	25	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（4）ディスカッション	課題
	26	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（5）ディスカッション	課題
	27	映画鑑賞とディスカッション（2）	課題
	28	書評あるいは映画評の作成（1）作成	課題
29	書評あるいは映画評の作成（2）提出	課題	
30	書評あるいは映画評の作成（3）講評会	課題	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の日本語訳本  ※『星の王子さま』については数多くの日本語訳本が出版されています。どの日本語訳本でも構いませんので、各自、入手して目を通しておいて下さい。  ※それ以外の資料については、授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>フランスの小説家アンドレ・マルローは「われわれは比較を通してしか感じ取ることができない」と語っていますが、何かを理解する上で比較することは重要なことです。常に「比較する」ことを意識しながら作品に向かって下さい。</p>
	<p>評価</p> <p>主に授業での発表と提出課題（80％）によって評価します。また、平常点（20％）も評価に加味します。  ※ただし、単位修得のためには、授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ヨーロッパ文化を主題とする講義として、ヨーロッパ研究Ⅰ（前期）とヨーロッパ研究Ⅱ（後期）があります。ヨーロッパについての知識を高めたい方は、その講義を受講して下さい。また、国際理解課題研究として、アジアおよび英語圏を主題としたゼミもあります。異文化について幅広く理解を深めたい方は、そのゼミを受講して下さい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	3年	hlee@okiu.ac.jp 授業終了後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面でも欠かせない韓国に焦点を当てる。日韓は政治・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年は「韓流」「K-pop」といったサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史・社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考える。</p>	<p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面で一気に雰囲気冷めてしまう現状を感じていませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のためには、如何なる姿勢と能力が必要であるかをみんなで考えていきませんか。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化を客観的にみつめる力を持ち、自文化を再認識する。</li> <li>・興味のあるテーマについて深く考察し、論文としてまとめていく。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	
	2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	
	3	韓国の社会1「生活・経済」	グループ発表（1回目）準備
	4	韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」	グループ発表（1回目）準備
	5	韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」	グループ発表（1回目）準備
	6	グループ発表と討議	
	7	韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」	グループ発表（2回目）準備
	8	韓国の文化2「衣・食・住」	グループ発表（2回目）準備
	9	韓国の文化3「伝統から現代へ」	グループ発表（2回目）準備
	10	グループ発表と討議	
	11	日韓相互理解1「韓国における日本観」	グループ発表（3回目）準備
	12	日韓相互理解2「日本における韓国観」	グループ発表（3回目）準備
	13	日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」	グループ発表（3回目）準備
	14	グループ発表と討議	
	15	前期のまとめ	
	16	後期の流れとテーマ設定に関する討議	テーマ設定のための文献調査
	17	研究調査の方法と論文作成について	テーマ設定のための文献調査
	18	テーマ設定と自己計画シート作成	
	19	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	20	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	21	計画遂行における見直し1	先行研究のまとめ
	22	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	23	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	24	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	25	計画遂行における見直し2	論文作成
	26	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	27	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	28	研究結果の発表	最終発表の準備
	29	研究結果の発表	最終発表の準備
30	研究結果の発表		
31	後期のまとめ・自己評価		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テーマに合わせて随時プリントを配布する。</p> <p>北尾謙治 他 (2005) 『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』 ひつじ書房</p> <p>小此木政夫 他 (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会</p> <p>その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自がテーマを設定し論文を作成するという前提で受講すること。</li> <li>・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマに沿った研究を積極的に遂行していくことを重視する。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>授業での発言・態度 (30%) と、グループまたは個人発表・課題・論文作成 (70%) などを合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語を受講したことが無い学生は、ことばを通してその言語を使用する社会への理解を深めるために、卒業前に韓国語を受講する機会を持つことを勧める。</li> <li>・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めていってほしい。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	木 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c.uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい グローバル社会に必要なコミュニケーション力、異文化理解などを通して、自立した学習者・即戦力のある人材になることを目指す。また日本・沖縄の状況を客観的に分析・比較し、自らの意見や情報を発表・発信できるようになる。	メッセージ 海外・異文化に興味がある、考えることが好き、そんな学生に受講して欲しい。英語力は問わないが、授業は英語と日本語で行うので、英語を学ぶ意欲が必要。好奇心、探究心のある学生の積極的な参加に期待する。I look forward in having you in my class! 【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。
	到達目標 最終的には1年で学んだことを活かし、英語で発表(Presentation)を行うことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	目標設定・学習プランを立てる
	2	Course Design and Setting Goals	目標設定・学習プランを立てる
	3	Who am I? ①	復習・課題
	4	Who am I? ②	グループ発表準備
	5	Who am I? ③	復習・課題・予習
	6	Fact or Opinion? ①	復習・課題
	7	Fact or Opinion? ②	グループ発表準備
	8	Fact or Opinion? ③	復習・課題・予習
	9	Education ①	復習、課題
	10	Education ②	グループ発表準備
	11	Education ③	復習・課題・予習
	12	Social Issues ①	復習・課題
	13	Social Issues ②	グループ発表準備
	14	Social Issues③	復習・課題・予習
	15	Review/ Summer Vacation Field Work	夏休み課題
	16	Summer Vacation Field Work Reports	復習・課題
	17	What is fair? ①	復習・課題
	18	What is fair? ②	グループ発表準備
	19	What is fair? ③	復習・課題・予習
	20	Debate ①	復習・課題
	21	Debate ②	グループ発表準備
	22	Debate ③	復習・課題復習・予習
	23	Globalization ①	復習・課題
	24	Globalization ②	グループ発表準備
	25	Globalization ③	復習・課題・予習
	26	Presentation Preparation ①	プレゼン準備
	27	Presentation Preparation ②	プレゼン準備
	28	Presentation Preparation ③	プレゼン準備
	29	Presentation Practice	プレゼン準備
	30	Final Presentation	課題
31	Class Reflection		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になが、必要に応じて授業で資料やプリントを配布する。自身で情報収集し、クラスメートと情報を共有すること。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>・ 私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。</li> <li>・ 学習経過・理解度をチェックするので予習、復習・課題は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>・ スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性（20%）②課題：グループワーク（20%）③課題：個人（20%）④Self-Reflection（20%）⑤Final Presentation（20%）を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語VII (TOEIC)、英語VIII (TOEFL)などの講座の受講や、英語スピーチコンテストや夏休みの英語キャンプなどにも積極的に参加し、英語力向上に努めて欲しい。興味のある学生は留学や海外インターンシップにもチャレンジして欲しい。社会人になっても自身で興味のあるテーマや事柄を追求する気持ちを持ち続け、問題に遭遇した時に自身で考え、解決できるような人材になって欲しい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	4年	hlee@okiu.ac.jp 授業終了後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面でも欠かせない韓国に焦点を当てる。日韓は政治・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年は「韓流」「K-pop」といったサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史・社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考える。</p>	<p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面で一気に雰囲気冷めてしまう現状を感じていませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のためには、如何なる姿勢と能力が必要であるかをみんなで考えていきませんか。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化を客観的にみつめる力を持ち、自文化を再認識する。</li> <li>・興味のあるテーマについて深く考察し、論文としてまとめていく。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	
	2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	
	3	韓国の社会1	グループ発表（1回目）準備
	4	韓国の社会2	グループ発表（1回目）準備
	5	韓国の社会3	グループ発表（1回目）準備
	6	グループ発表と討議	
	7	韓国の文化1	グループ発表（2回目）準備
	8	韓国の文化2	グループ発表（2回目）準備
	9	韓国の文化3	グループ発表（2回目）準備
	10	グループ発表と討議	
	11	日韓相互理解1	グループ発表（3回目）準備
	12	日韓相互理解2	グループ発表（3回目）準備
	13	日韓相互理解3	グループ発表（3回目）準備
	14	グループ発表と討議	
	15	前期のまとめ	
	16	後期の流れとテーマ設定に関する討議	テーマ設定のための文献調査
	17	研究調査の方法と論文作成について	テーマ設定のための文献調査
	18	テーマ設定と自己計画シート作成	
	19	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	20	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	21	計画遂行における見直し1	先行研究のまとめ
	22	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	23	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	24	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	25	計画遂行における見直し2	論文作成
	26	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	27	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	28	研究結果の発表	最終発表の準備
	29	研究結果の発表	最終発表の準備
30	研究結果の発表		
31	後期のまとめ・自己評価		



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに合わせて随時プリントを配布する。</li> <li>・北尾謙治 他 (2005) 『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』 ひつじ書房</li> <li>・小此木政夫 他 (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会</li> </ul> <p>その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自がテーマを設定し論文を作成するという前提で受講すること。</li> <li>・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマに沿った研究を積極的に遂行していくことを重視する。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>授業での発言・態度 (30%) と、グループまたは個人発表・課題・論文作成 (70%) などに合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語を受講したことが無い学生は、ことばを通してその言語を使用する社会への理解を深めるために、卒業前に韓国語を受講する機会を持つことを勧める。</li> <li>・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めていってほしい。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	4年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい グローバル社会に必要なコミュニケーション力、異文化理解などを通して、自立した学習者・即戦力のある人材になることを目指す。また日本・沖縄の状況を客観的に分析・比較し、自らの意見や情報を発表・発信できるようになる。	メッセージ 海外・異文化に興味がある、考えることが好き、そんな学生に受講して欲しい。英語力は問わないが、授業は英語と日本語で行うので、英語を学ぶ意欲が必要。好奇心、探究心のある学生の積極的な参加に期待する。 I look forward in having you in my class! 【重要】受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。
	到達目標 最終的には1年で学んだことを活かし、英語で発表(Presentation)を行うことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	目標設定・学習プランを立てる
	2	Course Design and Setting Goals	目標設定・学習プランを立てる
	3	Who am I? ①	復習・課題
	4	Who am I? ②	グループ発表準備
	5	Who am I? ③	復習・課題・予習
	6	Fact or Opinion? ①	復習・課題
	7	Fact or Opinion? ②	グループ発表準備
	8	Fact or Opinion? ③	復習・課題・予習
	9	Education ①	復習、課題
	10	Education ②	グループ発表準備
	11	Education ③	復習・課題・予習
	12	Social Issues ①	復習・課題
	13	Social Issues ②	グループ発表準備
	14	Social Issues③	復習・課題・予習
	15	Review/ Summer Vacation Field Work	夏休み課題
	16	Summer Vacation Field Work Reports	復習・課題
	17	What is fair? ①	復習・課題
	18	What is fair? ②	グループ発表準備
	19	What is fair? ③	復習・課題・予習
	20	Debate ①	復習・課題
	21	Debate ②	グループ発表準備
	22	Debate ③	復習・課題復習・予習
	23	Globalization ①	復習・課題
	24	Globalization ②	グループ発表準備
	25	Globalization ③	復習・課題・予習
	26	Presentation Preparation ①	プレゼン準備
	27	Presentation Preparation ②	プレゼン準備
	28	Presentation Preparation ③	プレゼン準備
	29	Presentation Practice	プレゼン準備
30	Final Presentation	課題	
31	Class Reflection		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になが、必要に応じて授業で資料やプリントを配布する。自身で情報収集し、クラスメートと情報を共有すること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>・ 私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。</li> <li>・ 学習経過・理解度をチェックするので予習、復習・課題は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>・ スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性（20%）②課題：グループワーク（20%）③課題：個人（20%）④Self-reflection（20%）⑤Final Presentation（20%）を総合的に判断して評価する。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語VII(TOEIC)、英語VIII(TOEFL)などの講座の受講や、英語スピーチコンテストや夏休みの英語キャンプなどにも積極的に参加し、英語力向上に努めて欲しい。興味のある学生は留学や海外インターンシップにもチャレンジして欲しい。社会人になっても自身で興味のあるテーマや事柄を追求する気持ちを持ち続け、問題に遭遇した時に自身で考え、解決できるような人材になって欲しい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	4年	授業の前後に教室で行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ヨーロッパ（主にフランス）を主題とする童話『星の王子さま』やアニメ映画『王と鳥』および映画『アンダーグラウンド』といった表象を通して、ヨーロッパの文化についての知識を得ることを目的とします。また、物語や映画が内包するヨーロッパ的なものを汲み取る力を身に付けて、それらを受容する感受性や日本を中心とするだけに留まらない幅広い視点を獲得することを目指します。</p>	<p>まず、ヨーロッパに関するさまざまな表現に触れてみましょう。それが、新しい世界への窓となります。</p>
到達目標	<p>ヨーロッパを主題とする表象（小説、映画、芸術、建築、音楽、料理、ファッションなど）を取り上げて、そこに内包されているヨーロッパ的なものを汲み取り、日本との比較を通してそれに関する自分の考えをまとめて、その考えを自分の言葉で発表することができるようになることを目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと童話『星の王子さま』についての発表の順番の決定	課題
	2	童話『星の王子さま』の分析と考察の方法の紹介と発表についてのガイダンス	課題
	3	童話『星の王子さま』の分析と考察（1）発表とディスカッション	課題
	4	童話『星の王子さま』の分析と考察（2）発表とディスカッション	課題
	5	童話『星の王子さま』の分析と考察（3）発表とディスカッション	課題
	6	童話『星の王子さま』の分析と考察（4）発表とディスカッション	課題
	7	童話『星の王子さま』の分析と考察（5）発表とディスカッション	課題
	8	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（1）ディスカッション	課題
	9	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（2）ディスカッション	課題
	10	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察の方法の紹介（3）ディスカッション	課題
	11	書評と映画評の作成についてのガイダンス	課題
	12	映画鑑賞とディスカッション（1）	課題
	13	書評あるいは映画評の作成（1）作成	課題
	14	書評あるいは映画評の作成（2）提出	課題
	15	書評あるいは映画評の作成（3）講評会	課題
	16	ヨーロッパを主題とする発表についてのガイダンス	課題
	17	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（1）発表とディスカッション	課題
	18	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（2）発表とディスカッション	課題
	19	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（3）発表とディスカッション	課題
	20	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（4）発表とディスカッション	課題
	21	ヨーロッパに関する主題の分析と考察（5）発表とディスカッション	課題
	22	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（1）ディスカッション	課題
	23	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（2）ディスカッション	課題
	24	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（3）ディスカッション	課題
	25	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（4）ディスカッション	課題
	26	映画『アンダーグラウンド』の分析と考察の方法の紹介（5）ディスカッション	課題
	27	映画鑑賞とディスカッション（2）	課題
	28	書評あるいは映画評の作成（1）作成	課題
	29	書評あるいは映画評の作成（2）提出	課題
30	書評あるいは映画評の作成（3）講評会	課題	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の日本語訳本  ※『星の王子さま』については数多くの日本語訳本が出版されています。どの日本語訳本でも構いませんので、各自、入手して目を通しておいて下さい。  ※それ以外の資料については、授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>フランスの小説家アンドレ・マルローは「われわれは比較を通してしか感じ取ることができない」と語っていますが、何かを理解する上で比較することは重要なことです。常に「比較する」ことを意識しながら作品に向かって下さい。</p>
	<p>評価</p> <p>主に授業での発表と提出課題（80％）によって評価します。また、平常点（20％）も評価に加味します。  ※ただし、単位修得のためには、授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ヨーロッパ文化を主題とする講義として、ヨーロッパ研究Ⅰ（前期）とヨーロッパ研究Ⅱ（後期）があります。ヨーロッパについての知識を高めたい方は、その講義を受講して下さい。また、国際理解課題研究として、アジアおよび英語圏を主題としたゼミもあります。異文化について幅広く理解を深めたい方は、そのゼミを受講して下さい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	太平洋諸島と移民 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄から、1889（明治32）年にハワイ、1905（明治38）年にニューカレドニアなどの太平洋諸島へ移民している。第一次世界大戦後に日本の委任統治領となった南洋群島（現在の米国自治領北マリアナ諸島、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国）へは多くの沖縄人が「移民」した。本講義では日本が統治した南洋群島の移民について考える。</p>	<p>かつて沖縄から多くの人々が、「移民」としてミクロネシアへ渡り暮らしていた。当時の在住法人の6割は沖縄出身であった。これら「南洋移民」の関係者は、現在でも「慰霊と交流」の旅を続けている。本講義を通して、ミクロネシア地域、太平洋諸島にもつことを期待したい。</p>
到達目標	「南洋移民」を学ぶことによって、太平洋諸島、日本、沖縄との関係を学ぶことができ、太平洋諸島、沖縄のことを理解することになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	太平洋諸島の概要－ミクロネシア、メラネシア、ポリネシア－	関連論文等を紹介する。以下同様。
	3	太平洋諸島の概要－南太平洋の人々の暮らし－	
	4	ミクロネシアの地理と自然環境	
	5	ミクロネシアの歴史	
	6	ミクロネシアの歴史	
	7	日本のミクロネシア統治－委任統治領－	
8	日本のミクロネシア統治－委任統治領－		
9	南洋移民の歴史的背景		
10	南洋移民の初期		
11	南洋移民の展開		
12	南洋移民と戦争		
13	南洋移民と戦争		
14	南洋移民と戦後		
15	テスト		
16	予備		
テキスト・参考文献・資料など	特になし。講義は、毎回配布するレジュメに沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像なども使用する。		
学びの手立て	私語等、好意の妨害になる行為は認めない。		
評価	講義でのリアクションペーパー等を提出してもらう。。それにより出席・講義理解状況を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「太平洋諸島と移民II」の履修を薦める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	太平洋諸島と移民Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 明治以降、日本人はハワイ、北米、中南米、東南アジアなど世界各地に移民を送出していた。太平洋諸島においてもイギリス領フィジー時やフランス領ニューカレドニア、オーストラリア領木曜島などに移民した。本講義ではハワイ移民とニューカレドニア移民を取り上げ、「島嶼」「移民」について考える。	メッセージ ハワイ、ニューカレドニアの移民について学ぶことによって、太平洋諸島について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 ハワイ、ニューカレドニアの移民を学びことによって、太平洋諸島、沖縄を理解することになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認、講義ガイダンス	
	2	登録確認、太平洋諸島の概要－メラネシア、ポリネシア－	関連論文等を紹介する。以下同様。
3	太平洋諸島の概要－南太平洋の人々の暮らし－		
4	2つの南太平洋		
5	南太平洋史		
6	南太平洋と日本		
7	南太平洋と日本		
8	ニューカレドニアと移民		
9	ニューカレドニアと移民		
10	ニューカレドニアと移民		
11	沖縄系ニューカレドニア移民の戦後		
12	ハワイと移民		
13	ハワイと移民		
14	ハワイと移民		
15	テスト		
16	予備		
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。講義は、毎回配布するレジュメに沿って行く。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像も使用する。		
	学びの手立て 私語等、講義を妨害する行為は認めない。		
	評価 講義でのリアクションペーパー等を呈出してもらい、それにより出席・講義理解状況を把握し、レポート、テスト等で総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「太平洋諸島と移民Ⅰ」の履修を薦める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	1年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ますますグローバル化が進む現在、ヒト・モノ・カネ・情報の地域や国境を越える移動が活発化している一方で、民族や宗教、言語、文化の違いによる対立も目立っている。本授業は、「国民」や「人種」の枠組みがいつ、どう形成されたのか歴史的に振り返り、私たちの差異をめぐる様々な思い込みを内省しながら、現代日本における多文化共生社会への課題を現場に根差した知見を踏まえつつ探る</p>	<p>この授業では、ペアやグループでの話し合い・発表や、フィールドワーク（現地での聞き取り活動）、ゲストスピーカーとの交流活動などがあります。そういうのが苦手・・・と思っている学生の皆さん、大丈夫！自分のペースで少しずつ練習しながら学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①近代国家および「国民」や「人種」の枠組みがいつ、どのように始まったのか理解し、説明することができる。                  ②エスニック紛争や対立の事例について、歴史的・社会的な背景を理解し、説明することができる。                  ③欧米諸国における多文化主義、および日本版多文化共生について、歴史的・社会的な背景を理解し、説明することができる。                  ④沖縄社会が多文化化している現況、および地域が抱える多文化共生への課題について、現場に根差した知見を体得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	予習 / 新聞チェック
	2	「国民」という概念 ―その始まりと歴史を概観する	予習復習 / 新聞チェック
	3	「人種」という概念 ―その始まりと歴史を概観する	〃
	4	「日本人」の形成と沖縄住民の辿った道を振り返る	〃
	5	第二次世界大戦後におけるナショナリズム：インド、ベトナム、中国を例に映像をとおして概観する	〃
	6	民族ナショナリズムと紛争	〃
	7	1960年代以降のアメリカ合衆国における「エスニック・リバイバル」現象	〃
	8	カナダの多文化主義はどう始まり、どう発展したか？	これまでの復習まとめ
	9	中間振り返り / 多言語・多文化化する日本社会と「多文化共生」	予習復習 / 新聞チェック
	10	多言語・多文化化する沖縄社会	〃
	11	フィールドワークをとおして、沖縄社会が多文化化している現況を学ぼう	〃
	12	フィールドワークの振り返り/発表/共有	〃
	13	ゲストスピーカーと共に、沖縄社会が多文化化している現況を学ぼう	〃
	14	沖縄で地域が抱える多文化共生への取り組みや課題について学ぼう	〃
15	ダブル、ハーフ、ミックス？ハイフン付きアイデンティティ？	これまでの復習まとめ	
16	最終振り返り/発表/共有		

テキスト・参考文献・資料など  
 文献抜き刷りを配布します。

学びの手立て

①授業では、グループでの話し合いや発表、フィールドワーク、ゲストスピーカーとの交流活動などがあります。様々な活動に、学生の皆さんの主体的な参加が期待されています。

②出席を重視します。無断欠席、遅刻は厳禁です。（遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。）

③配布資料や新聞切り抜き、ワークシートなどをファイルなどに綴り、自分の学びのプロセスとして確認できるようにしてください。（中間・最終振り返りで使います。）

評価

授業での話し合い・発表への積極的な参加・・・10%  
 新聞記事のミニレポート・・・10%  
 フィールドワークおよびゲストスピーカーとの活動レポート・・・30%  
 ワークシート（毎回提出）・・・30%  
 中間振り返り・最終振り返り・・・20%

次のステージ・関連科目

関連科目：「アジア研究Ⅰ、Ⅱ」「ミクロネシア研究Ⅰ、Ⅱ」「国際平和学Ⅰ」「ヨーロッパ研究Ⅰ」「ラテンアメリカ研究」、「文化人類学」



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	1年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ますますグローバル化が進む現在、ヒト・モノ・カネ・情報の地域や国境を越える移動が活発化している一方で、民族や宗教、言語、文化の違いによる対立も目立っている。本授業は、「国民」や「人種」の枠組みがいつ、どう形成されたのか歴史的に振り返り、私たちの差異をめぐる様々な思い込みを内省しながら、現代日本における多文化共生社会への課題を現場に根差した知見を踏まえつつ探る。</p>	<p>この授業では、ペアやグループでの話し合い・発表や、フィールドワーク（現地での聞き取り活動）、ゲストスピーカーとの交流活動などがあります。そういうのが苦手・・・と思っている学生の皆さん、大丈夫！自分のペースで少しずつ練習しながら学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①近代国家および「国民」や「人種」の枠組みがいつ、どのように始まったのか理解し、説明することができる。                  ②エスニック紛争や対立の事例について、歴史的・社会的な背景を理解し、説明することができる。                  ③欧米諸国における多文化主義、および日本版多文化共生について、歴史的・社会的な背景を理解し、説明することができる。                  ④沖縄社会が多文化化している現況、および地域が抱える多文化共生への課題について、現場に根差した知見を体得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	予習 / 新聞チェック
	2	「国民」という概念 ―その始まりと歴史を概観する	予習復習 / 新聞チェック
	3	「人種」という概念 ―その始まりと歴史を概観する	〃
	4	「日本人」の形成と沖縄住民の辿った道を振り返る	〃
	5	第二次世界大戦後におけるナショナリズム：インド、ベトナム、中国を例に映像をとおして概観する	〃
	6	民族ナショナリズムと紛争	〃
	7	1960年代以降のアメリカ合衆国における「エスニック・リバイバル」現象	〃
	8	カナダの多文化主義はどう始まり、どう発展したか？	これまでの復習・まとめ
	9	中間振り返り / 多言語・多文化化する日本社会と「多文化共生」	予習復習 / 新聞チェック
	10	多言語・多文化化する沖縄社会	〃
	11	フィールドワークをとおして、沖縄社会が多文化化している現況を学ぼう	〃
	12	フィールドワークの振り返り/発表/共有	〃
	13	ゲスト・スピーカーと共に、沖縄社会が多文化化している現況を学ぼう	〃
	14	沖縄で地域が抱える多文化共生への取り組みや課題について学ぼう	〃
15	ダブル、ハーフ、ミックス？ハイフン付きアイデンティティ？	これまでの復習・まとめ	
16	最終振り返り/発表/共有		

テキスト・参考文献・資料など  
 文献抜き刷りを配布します。

学びの手立て

①授業では、グループでの話し合いや発表、フィールドワーク（6月後半）、ゲストスピーカーとの交流活動（7月）などがあります。様々な活動に、学生の皆さんの主体的な参加が期待されています。  
 ②出席を重視します。無断欠席、遅刻は厳禁です。（遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。）  
 ③配布資料や新聞切り抜き、ワークシートなどをファイルなどに綴り、自分の学びのプロセスとして確認できるようにしてください。（中間・最終振り返りで使います。）

評価

授業での話し合い・発表への積極的な参加・・・10%  
 新聞記事のミニレポート・・・10%  
 フィールドワークおよびゲストスピーカーとの活動レポート・・・30%  
 ワークシート（毎回提出）・・・30%  
 中間振り返り・最終振り返り・・・20%

次のステージ・関連科目

関連科目：「アジア研究Ⅰ、Ⅱ」「ミクロネシア研究Ⅰ、Ⅱ」「国際平和学Ⅰ」「ヨーロッパ研究Ⅰ」「ラテンアメリカ研究」、「文化人類学」

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパの諸側面を学ぶことで自身の文化や社会に対する理解も深めてもらう。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮里 厚子	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義は、ヨーロッパそしてEUの成り立ちを概観しつつその文化的・社会的諸側面について学ぶことで、ヨーロッパの根幹をなす共通事項と多様性を理解してもらうことを目的としています。ヨーロッパについて理解を深めることで、自身の文化・社会についてより深く考えるきっかけにしてもらうこともこの講義のねらいです。	ヨーロッパに興味を持っていても、その歴史的・文化的背景やヨーロッパの人々の生活はよく知らないという人は多いかもしれません。この講義では、適宜その時々話題になっているニュース等も取り上げながら、「ヨーロッパ」という地域圏に対して様々なテーマからアプローチします。担当者の専門分野の関係上、ヨーロッパの中でも特にフランスについて言及することが多くなる予定です。
到達目標	①ヨーロッパの根底を流れる文化の特徴を説明することができる。 ②ヨーロッパの文化・社会の多様性を理解することができる。 ③EUの成り立ちとその課題を理解し、EUについて自分なりの見解を述べるができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ヨーロッパとは？	講義内容の復習
	2	ヨーロッパの成り立ち	〃
	3	ヨーロッパの宗教 (1)	〃
	4	ヨーロッパの宗教 (2)	〃
	5	ヨーロッパの宗教 (3)	〃
	6	美術 (1)	〃
	7	美術 (2)	〃
8	美術 (3)	〃	
9	ヨーロッパの言語	〃	
10	EUの成り立ち	〃	
11	EUの教育政策・言語政策	〃	
12	EUの抱える問題	〃	
13	ヨーロッパの人々の生活：家族	〃	
14	ヨーロッパの人々の生活：教育	〃	
15	復習とまとめ	〃	
16	期末試験		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付する		
学びの手立て	・「ヨーロッパ」の窓口は広いので、自分の専門分野、本、テレビ番組など、授業外でも「ヨーロッパ」の情報をキャッチするアンテナを張っておくと思います。		
評価	期末テスト：80% 平常点（出席状況、コメントシートの提出）：20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ヨーロッパ言語関連の科目等
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-西 圭介	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	メッセージ 現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えらると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
	到達目標 ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	授業での到達目標について確認
	2	ラテンアメリカについて/ブラジルの地理と歴史その1	ラテンアメリカに関する知識を確認
	3	ブラジルの地理と歴史	ブラジルに関する発展学習
	4	南アメリカの地理 (ペルー)	ブラジルに関する発展学習
	5	中央アメリカの地理 (パナマ)	ペルーに関する発展学習
	6	中央アメリカの地理 (コスタリカ)	パナマに関する発展学習
	7	中央アメリカの地理 (コスタリカ)	コスタリカに関する発展学習
	8	先スペイン期の文明 (人類の移動/メソアメリカ文明)	先スペイン期について発展学習
	9	先スペイン期のメソアメリカ文明/アンデス文明	先スペイン期について発展学習
	10	大航海時代「発見」から征服 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習
	11	征服・植民地時代 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習
	12	ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ)	メキシコに関する発展学習
	13	ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ)	キューバに関する発展学習
	14	ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン)	アルゼンチンに関する発展学習
15	現代ラテンアメリカの諸問題	小テストを確認し期末試験の準備	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。			
学びの手立て 履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。その際、時間外学習の内容についても毎回まとめを書いてもらいますので準備をしておくこと。  学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。			
評価 毎回の小テストと時間外学習のまとめ計52点 (4点×13回) と期末テスト48点の計100点で評価します。授業の妨げとなる行為は減点の対象になりますので注意してください。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	メッセージ 現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
	到達目標 ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	授業での到達目標について確認
	2	ラテンアメリカについて	ラテンアメリカに関する知識を確認
	3	南アメリカの地理と歴史（ブラジル）	ブラジルに関する発展学習
	4	ブラジルの地理と歴史	ブラジルに関する発展学習
	5	南アメリカの地理（ペルー）	ペルーに関する発展学習
	6	中央アメリカの地理（パナマ）	パナマに関する発展学習
	7	中央アメリカの地理（コスタリカ）	コスタリカに関する発展学習
	8	先スペイン期の文明（人類の移動／メソアメリカ文明）	先スペイン期について発展学習
9	先スペイン期のメソアメリカ文明／アンデス文明	先スペイン期について発展学習	
10	先スペイン期のアンデス文明／「発見」から征服（スペイン領を中心に）	紹介の資料を活用し発展学習	
11	征服・植民地時代（スペイン領を中心に）	紹介の資料を活用し発展学習	
12	ラテンアメリカ諸国の独立（メキシコ）	メキシコに関する発展学習	
13	ラテンアメリカ諸国の独立（キューバ）	キューバに関する発展学習	
14	ラテンアメリカ諸国の独立（アルゼンチン）	アルゼンチンに関する発展学習	
15	現代ラテンアメリカの諸問題	小テストを確認し期末試験の準備	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。		
	学びの手立て 履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。その際、時間外学習の内容についてもまとめを書いてもらいますので準備をしておくこと。  学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。		
	評価 毎回の小テストと時間外学習のまとめ52点（4点×13回）と期末テスト48点の計100点で評価します。授業の妨げとなる行為は減点の対象になりますので注意してください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。
-------	--